

ストックホルム市庁舎

Japanska

ストックホルム市庁舎へようこそ。ツアー中はフラッシュの使用が許可されていないオーバルルームを除き、フラッシュを使用して写真撮影を行うことができます。また、ツアー中はグループを離れたり、家具の上に座ったり、展示物に触れたりしないようお願い致します。他のお客様の迷惑になりますので、携帯電話をマナーモードに設定してください。

ツアーをお楽しみください！

ストックホルム市庁舎は、1911年から1923年の間に建築され、スウェーデンの建築家ラグナル・エストベリにより設計されました。これは、ナショナル・ロマンチックスタイルで構成されたスウェーデンの最も顕著な建物の一つです。また、ラグナル・エストベリは、イタリアのルネッサンス様式の宮殿からインスピレーションを受け、中庭とブルーホールという2つの広場から成る市庁舎を建築しました。市庁舎は、ストックホルムの政治家や公務員のための職場として建てられ、現在でも同じように使用されています。また、建物には、会議やパーティー用の儀式ホールがあります。

長い間、その建築家は、ブルーホールのレンガの壁を青色に塗りたいと考えていましたが、赤レンガがあまりに美しかったため、赤色のまま残したのです。ホールは赤色のままですが、彼は、「ブルーホール」という名称が既にストックホルム市民に普及していたため、その名称をそのまま残すことにしました。ノーベル賞受賞祝賀晩餐会は、毎年12月10日、市庁舎の最大の会場で行われます。しかし、実際の賞の授与式は、市庁舎では行われません。また、ブルーホールには、1万本のパイプと135のストップを備えるスカンジナビア最大のパイプオルガンの1つが設置されています。

市議会議事堂は、ストックホルム市議会の101名の議員が会議を行う場所です。会議は、訪問者に開放されており、傍聴席の片側に座ることができます。反対側には、ジャーナリストのための傍聴席があります。梁の天井に描かれた開口部は、バイキングのロングハウスを模して設計されています。

百のアーチ天井は、106メートルある塔の基礎部分になっています。天井には、100箇所の小さいアーチ型が施されています。ここには、聖ジョージとドラゴンを象徴したカリヨンを見ることができます。夏には、塔のチャイムの鐘が鳴る時、これが回転して人形が塔の外部に現れます。百のアーチ天井の壁には、通気の一部である大きな穴があります。



オーバルルームの壁は、フランスのボーベーで17世紀の終わりに織られたタペストリーで覆われています。これらを保護するため、この部屋でのフラッシュ撮影は許可されていません。土曜日に市民結婚式が、ここで行われます。

王子のギャラリーから、メーラレン湖とストックホルムの海岸の景色を見ることができます。部屋の反対側では、オイゲン王子による絵の中で同じモチーフを見ることができます。黒い柱は輝緑岩で作られています。水に面した窓の近くには、北欧神話や古典神話の男女の主人公に由来するレリーフがあります。

スリークラウンでは、シルクのカーテンと銀の糸が壁にかかっています。片方の壁には、1790年代のストックホルムの風景を描いた絵が描かれています。反対側にはスウェーデンの歴史上の著名人を表した絵を含むオーク材キャビネットがあります。

ゴールデンホールの壁は、エイナール・フォルセッツが9世紀から1920年代までのスウェーデンの歴史を描いたモザイクで装飾されています。これは、ガラスと金箔でできた1800万以上のモザイクで構成されています。「メーラレン湖の女王」、つまり、人間の姿をしたストックホルムは玉座に座り、彼女のそばには他の国々を表す絵画や建物が描かれています。ノーベル賞受賞祝賀晩餐会後の舞踏会はいつもゴールデンホールで行われます。